

ソリッド・ステート・ロジック・ジャパン

ソリッド・ステート・ロジック・ジャパンは、System T S500 (x 2台)、System T S300 を出展した。

Network I/O HC Bridge SRC、Live L550、Live L100

AWS Delta 948、XL Desk、SiX、Fusion X-Rack です。

System T は Native AoIP デジタルコンソールで、Dante HC を採用。7.1.4 までの Immersive Audio 制作。AES 67、SMPTE 2110 ネットワーク対応。VR 制

作用のプラグインツール内蔵。ポストプロダクション用の DAW コントロール、ダイナミックオートメーション機能を搭載している。

S500 は 16 フェーダーから 288 フェーダーまでのフレーム構築が可能とし、S300 は 16 フェーダーまたは 32 フェーダーフレームとなっている。

ブースでは、S500 は 5.1.4ch でデモ、S300 は ST2110-30 のデモを行った。また SCI、1 号車に納入予定の S500 も展

示した。

Live L550 と L100 は PA 用デジタルコンソール。L550 は今年 L500 からバージョンアップを行った。

アナログ機器は、アナログコンソールと DAW コントロールを融合した AWS Delta 948、アナログプロセッシングエンジンの Fusion、XL-Desk、デスクトップミキサー SiX を展示。



ブースでは、S500 は 5.1.4ch でデモ、S300 は ST2110-30 のデモを行った。



7.1.4 までの Immersive Audio 制作
AES 67、SMPTE 2110 ネットワーク対応



S500 は 16 フェーダーから 288 フェーダーまでのフレーム構築が可能としている。

日本サムスン 共同出展社及び主な出展製品

日本サムスン株式会社

<https://www.samsung.com/semiconductor/minisite/jp/>

Samsung SATA SSD 「860PRO」
「860EVO」

Samsung NVMe SSD 「970 EVO Plus」

Samsung Portable SSD 「X5」 「T5」

ITG マーケティング株式会社

<https://www.itgm.co.jp/>

Portable SSD T5 放送局向けパッケージ

Portable SSD T5&Cinema Camera 取付キット

株式会社 Project White TSUKUMO

<https://kaisya.tsukumo.co.jp/>

4K60p ノンリニア 編集ワークステーション 「eX.computer (WA9J-Y190XT/NR)」
「eX.computer InterBEE カスタマイズモデル」

ビジュアルテクノロジー株式会社

<https://www.trux.tokyo/>

8K ノンリニア編集 ワークステーション 「TRUX SUPER MAX Type W」

ジャパンブロードキャストソリューションズ株式会社 (Blackmagic Design、TILTA 取扱い代理店) <http://jbs-inc.jp/>

4K/8K 収録機器 「HyperDeck Extreme

8K HDR」 「Blackmagic MultiDock 10G」、デジタルフィルムカメラ 「Blackmagic Pocket Cinema Camera 6K」、TILTA 製カメラリグ
オンサイトスタンダード株式会社 (HighPoint 取扱い代理店)

<http://www.onsitestandard.co.jp/>

co.jp/
HighPoint 製品 RAID ストレージソリューション 「RocketStor6661A-NVMe」 「SSD7101A-1」

株式会社聖仁商事 (Areca 取扱い代理店)

<http://www.seijinshoji.co.jp/>

Areca 製品 RAID ストレージソリューション 「ARC-8050T3-6M」 「ARC-4038-12」

■機材協力社 (順不同)

株式会社 JVC ケンウッド

<https://www3.jvckenwood.com/>

株式会社シグマ

<https://www.sigma-photo.co.jp/>

メディアエッジ株式会社 ATOMOS 日本正



規総代理店

<https://www.mediaedge.co.jp/>

ブラックマジックデザイン株式会社

<https://www.blackmagicdesign.com/jp>

三友株式会社 (DJI 取扱い代理店)

<http://www.mitomo.co.jp/>

株式会社タジマモーターコーポレーション (GoPro 取扱い代理店)

<https://www.tajima-motor.com/>

ジュエ株式会社 (Z CAM 取扱い代理店)

<https://jouer.co.jp/>

イノテック株式会社 (QNAP 取扱い代理店)

<https://www.innotech.co.jp/>

株式会社アイ・オー・データ機器

<https://www.iodata.jp/>

オタリテック

LAWO 社やPMC 社の製品展示などを主体としたメインブース（写真下）と、RIEDEL 社製品のブースを向かい合わせて設けたほか、1～7 ホールの他社ブースとの間をIP で結ぶ特別共同展示のデモンストレーションにも参画し、AES67、SMPTE ST2110 対応 IP 関連製品を多数出展した。



< LAWO >

世界中のスタジオ、中継車で使われる LAWO 社コンソールの中でも最大の導入数を持つ mc²56 は、SMPTE ST2110、AES 67/RAVENNA ヘネティブにフルサポートした最新第3世代バージョンを展示。また、IP ルーティング/プロセッシングプラットフォーム「V_Matrix」をはじめとしたビデオ/IP 関連機器を規模を拡大して展示した。



LAWOのIPネットワーク製品と「mc²56」を展示

LAWO IPネットワーク製品▶
http://www.otaritec.co.jp/products/lawo/products/a_line.html



LAWO mc²56▶
<http://www.otaritec.co.jp/products/lawo/products/mc256.html>



LAWO Ruby▶
<http://www.otaritec.co.jp/products/lawo/products/ruby/intro.html>



< Riedel Communications >

Riedel 社からはすでに多くの国内導入事例のあるワイヤレスインカム「Bolero」をはじめ、レバーキーを搭載したインカムパネルをはじめ様々なアプリケーションに対応する多機能インターフェイス「RSP-1232HL」、ST2110 対応となった Micron IP など多くの新製品を展示した。



RIEDEL BOLERO▶
<http://www.otaritec.co.jp/products/riedel/bolero/>



昨年のNAB ショーで発表したRiedel の新製品『SmartPanel』。RIEDEL『SmartPanel App』駆動のユーザー・インターフェイスに基づく新製品1200 Series『RSP-1232HL』（Hybrid Lever）多機能インターフェイスは、ワークフローの柔軟性とパワーと接続能力を格段に進化させる。この新パネルは複数のフルカラー・マルチタッチ・ディスプレイや32個の独創的なハイブリッド・レバー・キー、多機能アプリを活用する能力、そして今日用いられている様々なワークフローに簡単に適応する能力を備えており、ユーザーの従来方式の作業が可能でありながら、まったく新しい可能性も拓きます。



RSP-1232HL▶
<http://www.otaritec.co.jp/products/riedel/controlpanels+interfaces.html>



< OTARI LWB >

600 台をこえる国内導入数をもつ光ジープ LWB。可搬型の LWB-24、据え置き型の LWB-72 を展示。



LWB-72▶
http://www.otaritec.co.jp/web-catalogs/otari_lwb2472_leaflet_2018-09_web.pdf



< PMC >

英国PMC 社からは英国メトロポリススタジオや米国キャピトルスタジオなどが導入した新世代のメインモニタリングシステム「QB1A」をはじめ「QB1A」と同じピストンフラットベースドライバーを搭載した3ウェイミッドレンジモニターの「IB1S-A」、ニアフィールドのtwotwo シリーズなど多彩なラインナップを展示。（写真上）

IB1S-A▶
<http://www.otaritec.co.jp/products/pmc/products/ib1s-aiii.html>



< Phonak >

Phonak『Roger™』システムは、ライセンスフリーの2.4 GHz 帯を利用したデジタル・ワイヤレス・イヤープース・コミュニケーション（送り返し）システム。

補聴器メーカーとして世界的に有名なPhonak 社の技術を用いて開発されたストレスフリーで小型のイヤープース型受信機、低ノイズで高いサウンド・クオリティ、簡単な設定を特徴とし、様々なアプリケーションで演出の邪魔にならずに最適なスタジオ・コミュニケーションを提供する。

Phonak Roger▶
http://www.otaritec.co.jp/products/phonak_roger/index.html



< d&b audiotechnik >

新シリーズA-Series オークメント・アレー・ラウドスピーカーを展示。A-series は中規模用途向けに設計されており、可変スプレイ角と音響的最適化をコンパクトなフォーマットに組み合わせたA-Series はカバレッジの柔軟性が重要な様々な用途に適し、ラウドスピーカー1 本から充実したSR ソリューションまで拡張可能なシステムとなる。



A-Series▶
<http://www.otaritec.co.jp/products/db/index.html>



武蔵/武蔵エスアイ

◇DCP-73 制御アプリケーションソフトウェア アシテム [新製品]

DCP-73 はSONY 社 様XDCAM Station をコントロールするWindows アプリケーション。XDS のファイル操作のプラットフォーム GUI として使用可能。

- ・クリップの並び替えや送出が可能。
- ・Internal/PD/SxS のクリップ作成が可能。
- ・ファイルの転送が可能。
- ・最大4台のXDSの制御が可能。

◇MDC-74 マルチデバイスコントローラ

ディスクレコーダ、VTR のリモートコントローラ。



- ・カラー液晶を搭載
- ・4ポートのTC とステータス表示
- ・ファイル、CUE のリスト表示
- ・± 設定可能なPre Roll/Post Roll 機能
- ・LTC 入出力装備

・FF/REW は可変速可能

・NEXT/PREV 動作可能

その他の標準製品は以下の通り。

・MDC リーズ デバイスコントローラ

・DCP-1500 fo EVS 動画ファイルソフトウェアアシテム

・MCI シリーズ コントロールインターフェース

◇MVXシリーズ マルチチャンネルビデオレコーダー

MVXシリーズはマルチチャンネルビデオディスクレコーダー（サーバー）。モデルにより1入力1出力から4入力2出力のラインナップがある。

◇VIBOX8 All In One Live Production System

SimplyLIVE 社製VIBOX は、複数の映像音声入力の同時収録、ビデオミキシング/スイッチング、オーディオミキシング、ビデオキヤー、収録中のビデオの再生及びスロー再生（撮って出し再生）、ハイライト編集、ビデオクリップのロギング機能などを1台のビデオサー



バーに集約したAll In One Live Production System である。

◇Qx 12G | Qx IP IP, 4K/UHD+HDR の信号発生器/分析ツール

Qx 12G | Qx IP は英国Phabrix 社の製品でSDI 及びIP の信号発生器及び信号測定/分析器。SD から12G-SDI 及びIP の各信号の各種測定結果をLCD 画面上に一覧表示できますので回線チェックや、送出映像の監視に最適。

4K/UHD までのSDI (12G/6G/3G/1.5G-SDI)を基本にIP (SMPTE

2022-6 現在リリース

中、SMPTE 2110 はオプションにて後日リリース)の機能を追加でき、ハイブリッドなSDI/IP のテスト環境を構築できる。



ネットワークエレクトロニクス

同社では、Digital Nirvana(デジタルニルヴァーナ)社「Monitor IQ」(モニターIQ)を国内初公表。Monitor IQ は、Volicon Observer (ポリコン オブザーバー)に代わるデジタルニルヴァーナ社法定同録装置である。Debian Linux ベースのweb サーバーアプライアンス製品であるSDI ベースバンド及びTS、IP など多くの入力方式に対応した長時間録画と軽快なファイルハンドリング機能を持つマルチチャンネルモニタリング機能を実装。同録、モニター、レポート、ファイル変換・転送が可能。データ解析、ソーシャルメディア向けやOTT、ストリーミングサービスとの連携が可能となっている。



また Nevion 製品では、Live IP メディアコントロール & オーケストレーション、多機能メディアプロセッサ・ゲートウェイ、IP/ベースバンド・ハイブリッド・システムインテグレーション「VideolPath/Virtuoso」を紹介(写真上)。

BRIDGE TECHNOLOGIES 製品では、IP メ



ディアモニタリング監視、集信/配信メディア監視、非圧縮ベースバンド、TS 圧縮ビデオオーディオメディア「Stream Labs」を紹介。そのほか、CHYRONHEGO センサーレスリアルタイムバーチャルグラフィック合成システム「VIRTUAL PLACEMENT」などの展示も行なった。

▶<https://network-electronics.co.jp/>



digital nirvana™

Monitor IQ

「法定同録だけじゃない」

放送事業者は、幅広い規制およびコンプライアンス要件を満たすために、放送コンテンツに関する知識を収集して使用する必要があります。Digital Nirvana の MonitorIQ は、放送事業者にコンテンツの記録、保存、監視、分析、再利用を可能にする安全で使いやすいソリューションを提供いたします。

Volicon Observer ブロードキャストモニタリングおよびコンプライアンスログ製品の販売終了の発表により、Digital Nirvana は Volicon の顧客が次世代のブロードキャストモニタリングおよびコンプライアンスログプラットフォームにスムーズに移行できるよう支援いたします。

製造元：
digital nirvana digital-nirvana.com

輸入販売元：
ネットワークエレクトロニクスジャパン 株式会社



K-WILL

<http://www.kmw.co.jp/>



- 2K/4K 画音監視「QuMax3000/FED」
(Full/Reduced Reference)



映像・音声監視ソリューションの中核製品であるQuMaxシリーズに新たに加わった4K 12G-SDI映像・音声監視ボード「PROBE 12G」を展示。2K対応PROBE 300シリーズと組み合わせることで、1台で2K/4K映像・音声監視を実現する。ITU-T J.144標準方式をベースに、画素・音声サンプルを直接比較することにより、より緻密な4K監視を実現する。

さらに、4K 12G-SDI対応の特徴量抽出デバイス「FED」(Feature Extraction Device)を初公開。コンパクトな1RUハーフラックサイズのこの装置は、2K/4K映像・音声の特徴量やANCデータを取り出し、最大12Gbpsの情報量を1Mbpsまでエッセンス化し、IPネットワークで監視地点まで送出(1筐体あたり2系統入力可)。監視地点では、映像や音

声の送信元や受信先から受け取った複数の特徴量を解析することで、遠隔地点間の伝送状態を、リアルタイムに監視することが可能となる。

- 4K/8K HDR 画質評価「VP4000」
(Full Reference)



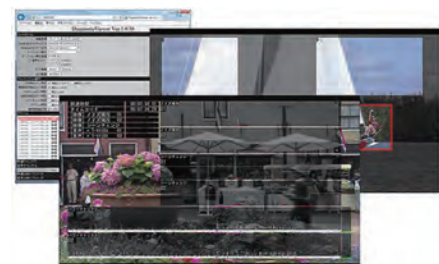
「VP4000」は、2160 59.94p フルサンプルの4K基準画像及び評価画像の時間軸を自動補正することで画素同士を比較し、輝度差分値Y_PSNRと共に、ITU-T J.144国際標準方式によるDSCQS(二重刺激連続品質尺度)をフレーム単位でリアルタイム計測(エミー賞受賞)。その評価精度は、ITU-R 500シリーズによる主観評価と同等で、さらに8K画質評価及びHDR対応へと進化した。ブースでは4K画像の画質評価をハンズオンで紹介した。

- 2K/4K 画音検査「ProQ4000」
(No Reference)

「ProQ4000」は、PCワークステーション



上で12G SDI、3G Quad SDIもしくは4Kファイルに対して、ブロックノイズ、ラインノイズ、プッチ音等一瞬のノイズをリアルタイムで正確にとらえることができる、2K/4K対応映像・音声検査装置。ブースでは、1~2フレームのカクリやスキップフレーム、黒味やノイズ混入の検査とエラーキャプチャー機能などを紹介した。



伊藤忠ケーブルシステム

4K/8K制作ツールを中心に多様なソリューションを展示した。

◆高性能4K SDR/HDRクロスコンバータ
Technicolorエンジンによる印象的なSDR/HDR双方向コンバータを展示。過去素材をワンパスで高品位な4K HDRへ、また4K HDHカメラの撮影素材も安定した放送用HD SDRへ変換が可能な製品。



▶ https://www.itochu-cable.co.jp/products/Cobalt-Digital/item_4046



◆支援システムによる素材管理(参考展示)
ニシコンJaprs連携によるファイルベース素材管理をご提案。MAMの運用に欠かせない素材メタの収集と作成をアシストすることにより、素材整理の判断と作業を容易にし、リソースの有効活用を可能にする。

◆AIによるハイライトシーンの自動作成

Valossa社製AI製品を初展示。手間のかかる大量コンテンツのダイジェスト版作成を同社のAIエンジンを使って自動で作成。高次元のAIエンジンを使い、動き、感情や表情を解析し、作品の意図に沿ったハイライトシーンを自動抽出する。

▶ <https://valossa.com/>



◆4K/8K ノンリニアワークフロー

4K/8K映像コンテンツ制作システムを汎用性のあるWorkstationベースで構築展示。4K/8K化の懸念であったデータ容量の増加に対応しながらも8K映像制作に必要な転送速度も考慮したシステム提案です。

▶ <https://www.itochu-cable.co.jp/4k/edit.html>



◆QC ツールコーナー

パカパカチェッカーの標準機ハーディングの4K/HDR対応製品やVenera Technologies社製Pulsar最新バージョン、ターボシステムズのXAVC素材のプレビューに有効なXJive-MXFプレーヤを展示した。

▶ https://www.itochu-cable.co.jp/products/production/harding/Cambridge_Research_Systems



▶ https://www.itochu-cable.co.jp/products/Venera_Technologies/item_4039



ニッキャビ

シンプルで低コストでありながら拡張性とデザイン性に優れたコンソールデスク「spaceRAIL」に「ウォールマウントフレーム」と「モニターアーム」を組み合わせた多面監視仕様としてより再現性の高い展示を行った。

また、あらゆるシーンに対応可能なモジュール式コンソールデスク「cyber RAIL」やマルチモニターウォール「cyber WALL」、スタイリッシュでコンパクトな「cyber RACK」、サインageスタンドや様々なツールキャリアとしても使える「cyberSTAND」などの「cyber series」を中心として、デザイン性を備えた樹脂ケース「HPRC レジンケース」、従来から映像・放送業界で多数採用されているブロードキャストラック「NEO Rack series」や静音ラック「SRC series」などのラック製品に樹脂性ダクト「オープンダクト」や床下配線の階層分けを可能とした「アンダーフロアケーブルマネージャー」などのソリューション関連を組み合わせて展示した。



<http://www.niccabi.co.jp/information/exhibition/index.html>

■アラームファンユニット「AFU シリーズ」
新製品としてラック用排気ファンを最大6機搭載し、回転数低下等の異常時にアラーム出力を可能とした「アラームファンユニット」および対応オプションとして各ファンの回転数や電源、コネクターボックスの通電状態を監視し、異常時にはLED ランプの点滅とブザーによる発報を行い、どのファンまたはコネクターボックスによる異常なのかを一目で確認することが出来る1Uサイズの「アラームファンモニター」を同展にて初出展した。
なお、アラームファンユニットはよみうりテレビに87台導入の実績を持っている。



<http://www.niccabi.co.jp/products/option/afu/index.html>



ラック用排気ファンを6機搭載したアラームファンユニット



モジュール式コンソールデスク「cyber RAIL」を中心に、「spaceRAIL」を左に配して展示を行った



アラームファンユニットとアラームファンモニターをセットした状態で展示

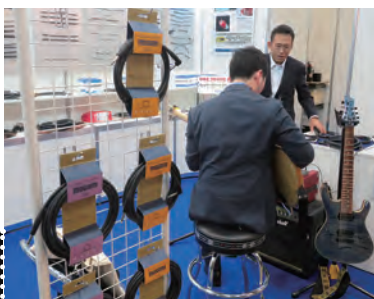


1Uサイズ「アラームファンモニター」

モガミ電線

放送局、レコーディングスタジオ、公共ホール等の業務用オーディオ・ビデオ及びコンピュータのインターフェース・ケーブル等を開発し、販売を行う同社では、定評のある柔軟かつ機械的強度に優れたケーブルや、基礎・基本的な工学技術に於いて他社を凌駕する技術情報の蓄積を活かした付加価値の高い製品作りを行なっている。このような高度な技術を活かし、イーサネットケーブル、BNC コネクタ付き同軸ケーブル、110Ω AES/EBU デジタルオーディオ・マルチケーブル、吊りマイクケーブル、0.226mm² ステレオマイクケーブル、高解像度チューブ・マイクロホン・ケーブルなどを主力製品としている。

本年の同社ブースでは、ケーブルの違いによるギターの音色の違いを来場者に実感してもらうテストが行われ、注目を浴びていた。そのほか本展では、3極⇄5極変換アダプター、120Ω ターミネーター、RoHS 対応の「DMX シリーズ」アクセサリや、アメリカBTX社のネジ止め方式のコネクタ「ターミナルブロックコネクタ」などを紹介した。



試聴テストを行なった来場者▲
▲試聴テストに使用されたケーブル



MOGAMI

MICROPHONE CABLE

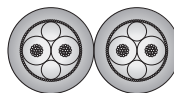
モガミ マイク・ケーブル

#24AWG STEREO MIC. CABLE

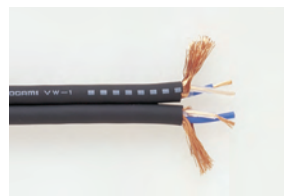
0.226mm² ステレオ マイクケーブル

ステレオ (ペア) で引き回せて、しかも分岐した後の両チャンネルのコアが通常のマルチケーブルよりも太く丈夫なものをという要望に答えて設計されたケーブルで、ドラマ取り等、常にステレオで引き回す場合に便利で、混がらがりが減ります。

コア径は 4.8mm で分岐した後の XLR コネクタに接続される片チャンネル単独部分にも機械的な安心感があります。また、導体には OFC を使い、静電容量も通常のマイクケーブル並に低く抑えてありますので、音質的にも優れています。



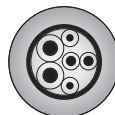
Part No.3106



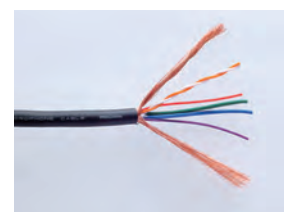
HIGHEST DEFINITION TUBE MICROPHONE CABLE

高解像度チューブ・マイクロホン・ケーブル

代表的なチューブマイクの電源回路を含めた電気回路に基づいて設計された、高音質追求型のチューブマイク専用ケーブルです。ほとんどの代表的なチューブマイクに適合します。



Part No.3172



お問い合わせ

モガミ電線株式会社

モガミ電線株式会社 PHONE: (0263) 52 0131

E-MAIL: sales@mogami-wire.co.jp URL: <http://www.mogami-wire.co.jp>

エスシーアライアンス

<Harmony Radio System>

同社では 20 年以上に及び全国100 局を超える放送局への「DAD 自動運行システム」の販売、施工、サポートを行ってきた実績を基に、この度新しく国産のラジオ局向け放送自動運行システム「Harmony」を開発した。「Harmony」はラジオ局に必要とされる自動運行システム (APS)、CM/ 番組再生 (DAF)、放送素材管理、音声スイッチャー、営放システム (EDPS) 更にスタジオ DAW の機能もオプションで追加できる、Windows PC ベースの総合放送システム。本展では PC ベースの実機を紹介した。(写真右上)

<https://ss.sc-a.jp/harmony/harmony-basic-set/>



<Omnia 社製品>

Omnia MPX Node(新製品) : アナログ MPX 信号を直接 320kbps で IP 伝送するインターフェースユニット。
演奏所に設置したサウンドプロセッサのピークコントロールされた L/R 信号、パイロット信号を IP ストリームで送信所に伝送。更に、1 台の Omnia MPX エンコーダーは同時に複数の送信所の MPX デコーダーにも配



TELOS 社 Infinity AoIP インカムシステム

信可能。

MPX デコーダー出力を送信機の MPX 入力に直接接続ができ、クリアなサウンドを提供。

<https://ss.sc-a.jp/omnia/>



<Telos 社製品>

Infinity AoIP インカムシステム (新製品、参考出展) : AoIP 対応 (Livewire+, AES6 準拠) のインカムシステム。

Axia 製の AoIP ネットワークコンソールシステムのユーザーは既存のオーディオネットワークをインカム用にも使用可能。

親機のようなセントラルマトリクスも不要でインカムシステムを構築。

<https://ss.sc-a.jp/TELOS/>



<Digigram 社製品>

IQOYA TALK(新製品) : 今後の 5G にも対応する IP ポータブルオーディオコーデック。中継用途やトークショーに最適なポータブルオーディオ IP コーデックで、1 台で最大 4 人のゲストにスタジオ品質のインタビューが可能。

<https://ss.sc-a.jp/Digigram/>



SIP対応ステレオIPコーデック「IQOYA TALK」



<BW Broadcast 社製品>

TX50V3 (新製品) : 5 ~ 50W 出力可変の FM 送信機「TX50V2」の後継機種。

TX50V3 では FM 同期放送用送信機としても対応できるように 10MHz/1PPS シンク入力を備え、周波数の高安定度化、μSec ステップのディレイ調整、パイロット信号の位相調整機能、MPX 出力ディレイ調整などが標準機能として追加。

https://ss.sc-a.jp/bw_broadcast/



<Inovonics 社製品>

米国 Inovonics 社は 40 年以上にわたって、高品質な AM/FM モジュレーションモニター、放送用オーディオプロセッサ、RDS エンコーダーを製造してきたメーカーであるが、本展では簡易 FM 放送監視チューナーの新製品「INOMINI 673」を中心に、FM 放送監視チューナー「650 AARON」、FM モジュレーションモニター「531N」などを紹介。

<https://ss.sc-a.jp/inovonics/>



FM放送監視チューナー「650 AARON」



簡易FM放送監視チューナー「INOMINI 673」



FMモジュレーションモニター「531N」

展示会用 カラー・モノクロ 小中ロット印刷 是非ご相談ください

企画・デザイン・制作から印刷・製本まで社内一貫生産
カタログ・パンフレット／マニュアル／シール／名刺／封筒
バックライト LED 用 ポスター・大判・長尺出力／パッケージ制作



～月刊 FDI 発行元～
株式会社 ユニワールド

〒156-0043 東京都世田谷区松原2-34-9
TEL. 03(5376)7233 FAX. 03(5376)7246

エレクトロニクス

ヒビノグループのブースにて、INCITE プレゼンテーションスイッチャー、AMX TPCControl アプリケーション「TPC-WIN-TPI」マルチ映像入力デモ、AMX スピーカーなどのデモを行った。

■ Incite デジタルビデオプレゼンテーションシステム「NCITE-813A」:NCITE-813 にパワーアンプを搭載したプレゼンテーションスイッチャーで、4K60 4:4:4 コンテンツに対応し、8つのインプット（4×HDMI, 2×DXLite, 2×RGBHV/VGA）に入力された映像を、2×HDMI アウトプット、1×DXLite アウトプットに分配出力する。
8x1:3 4K60 4:4:4 デジタルビデオプレゼンテーションスイッチャー

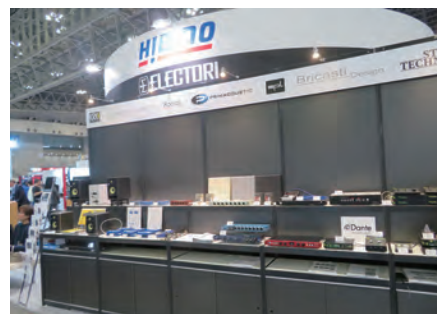


NCITE-813A

（HDCP 2.2, ビデオスケーリング, 距離伝送, ウィンドウイング機能オーディオDSP, フィードバックサプレッション機能, DriveCore アンプ）

主な特長は、4K UHD コンテンツをサポート／HDMI2.0, HDCP2.2 サポート／スケーリング／ウィンドウプロセッサ内蔵／BSSのDSP内蔵／dbxのDSP内蔵／独自規格であるDXLiteにより、4K60 4:4:4 コンテンツを70mまで延長可能／柔軟なインターフェースオプション

■ AMX のコントロールシステム :1982年の設立以来、AMX のNetLinx コントロールシステムは、オフィスや文教施設、官公庁などの設備業界向けに、最先端のICTテクノロジー



と単純明快さをブレンドしたコントロールソリューションを開発し、常に設備産業界をリードしてきた。コントロール、ホームオートメーション、映像配信などを含めた幅広いソリューションを抱え、信頼性、持続性、そして拡張性のあるシステムにより、様々な空間におけるAV設備の機器制御やシステムの統合管理を担っている。AMXのシステムは、「タッチパネルコントロールシステム」を主軸として、デバイス制御の強みを生かした「IP伝送器SVSi」、そして会議室や教室の設備トレンドを追及した「スイッチャー/ハドルコラボレーション」の3カテゴリーから製品開発を行っている。会議室、ホームオートメーション、文教施設、ホテル、ネットワークセンター、エンターテインメント、ヘルスケア、放送設備など、世界中の様々な設備に採用されている。

三友

映像制作に関わるユーザーのニーズに応える効率的なワークフローを実現する製品や撮影用ペリフェラル製品を出展。撮影機材では、大判センサーをカバーするイメージサークルを持つ Leitz のシネマレンズをはじめ、DJI 製品、超小型の放送用カメラ Dream CHIP ATOM one を展示。また編集機材では、ハイエンドオンライン編集・カラー&フィニッシングシステム Grass Valley Rio 4K/8K のシステムを紹介した。

この他、8K 光 / 無線伝送のシステムなど、様々な機材の実働展示を行なった。

ORCA バッグ :

ORCA は、放送や映画のプロフェッショナルに最適なカスタムバッグやアクセサリを提供するために生まれた。全てのプロフェッショナルの仕事を簡単に、快適に、素早くこなせるようにすることが ORCA のモットーである。ORCA の研究開発チームは映画、音声、テレビ産業に 30 年以上の間携わっており、この経験が最適な機材バッグを提供することを可能にしている。



ORCA と PortaBrace バッグ類が並んだコーナー

全ての ORCA 製品はその研究開発チームによって最先端の技術や道具を駆使して製造されています。その結果デリケートなビデオ、ライト、音声機材などを保護し、運ぶことができるケースを設計することが可能になっているとのこと。

最高峰シネマレンズ『Leitz』
日本初公開となる大判センサーをカバーする Leitz の新プライムレンズ



NEW・LEITZ PRIME / NEW・LEITZ ZOOM
/ NEW・THALIA-T
・ M 0.8 ・ MACROLUX 114, 95 他



Grass Valley Rio 4K/8K

ハイエンドオンライン編集・カラー&フィニッシングシステム



<https://www.mitomo.co.jp/>



ヴァイテックグループ

ヴァイテックプロダクションソリューションズとヴァイテックイメージングとは本年共同でブースにて出展した。

ヴァイテックプロダクションソリューションズ : Vinten, Sachtler, oconnor, ANTON BAUER, Autocue, autoscript, Litepanels など、多数のブランドをもつ同社では、昨年までの flowtech のモデルは、flowtech 75、flowtech 100 において、Vinten と Sachtler とが組み合わせたモデルが登場していたが、本展では OCONNOR の新しいヘッド Ultimate 1040 と組み合わせたモデルが新登場。これで、flowtech は Vinten や Sachtler のほか OCONNOR の3つのブランドが組み合わせられたラインナップとなった。

flowtech は革新的な高速セッティング機構、および厳しい使用環境を想定した耐久性を備える、まったく新しいカーボンファイバー製の三脚システム。撮影現場におけるワークフローの大幅な改善と、撮影の自由度の向上を可能とする数々の新開発テクノロジーが搭載されている。



<https://www.vitecproductionsolutions.jp/>
flowtech の展示コーナー▶

ヴァイテックイメージング : マンフロットブランドのビデオ雲台・三脚・カメラバッグなどを中心に、今年から取り扱いを始めた JOBY 小型三脚、Lowepro カメラバッグも展示。

ナイトロテックフルードビデオ雲台は、ビデオカメラの傾きに反発するカウンターバランス機構に、革新的なナイトロジェン（窒素ガス）ピストンを採用。一般的なバネを使用した機構に比べコンパクトなサイズで、強力かつ無段階のカウンターバランスを実現します。ナイトロテック N8 と N12 雲台（8kg と 12kg までの機材に対応）と、各種三脚とのキットをラインナップ。今回、マンフロット初のカーボン製ツインチューブ三脚も参考出品し befree シリーズのハイスpekモデル「befree GT XPRO」や、Syrp のモーションコ



ントロールデバイス「Genie Mini II」を展示。トラベル三脚 befree シリーズにマクロ撮影や俯瞰撮影に便利な 90° センターポール機構を搭載したハイスpekモデル befree GT XPRO を新製品として出品したほか、無段階カウンターバランス搭載で話題になった Nitrotech の新シリーズを出展。

また、スライダーに搭載してパンやティルト、タイムラプス撮影ができる Syrp の新バージョン Genie Mini II、ゴリラポッドに代表される JOBY からはアルミ軽合金を採用することで堅牢性を向上させ、2 本のアームで LED ライトなどのアクセサリーの装着に対応したゴリラポッドの新モデルを出展。そのほかにも、Lowepro のアウトドアフォトグラファー向けのバックパックや Vinten のスタジオペダスタル、Sachtler や OCONNOR の三脚などを出展した。

富士フイルム

同社では、各ジャンルのレンズコーナーを設けたほか、本年はブース内に 4K 大型中継車を展示した。

高倍率レンズコーナー : 主に高倍率レンズを展示。新製品の 4K 箱型レンズ「UA107x8.4 AF」と「UA125x8」が国内初出展。オートフォーカスの合焦精度や高倍率ならではの画角を体感できた。

シネマレンズコーナー : フルサイズ対応ズームレンズ「Premista 28-100、80-250」を展示。望遠タイプ（80-250mm）はダナードリーに搭載して展示を行った。

報道レンズコーナー : 小型・軽量タイプの UA24X7.8 などカムコーダーに搭載して

出展。担いだ際のバランスや操作感をタッチ&トライで確認できるデモを行なった。

また、2019 年 8 月に販売開始した同社初の望遠監視カメラ「SX800」を展示。

40 倍ズームでの遠方撮影、防振性能、高速 AF が注目された。

スタジオ/中継レンズコーナー : ARIA, RBF を搭載した UA13X4.5 レンズや、寄れて引ける 4K レンズの UA18X5.5、UA27X6.5 などを出展いたします。クレーンや天吊りスタイルで展示することで、現場での操作感をイメージして頂くことができます。

西尾レントオール 中継車コーナー : 2019 年 12 月にレンタルを開始する、レンタル業界初の 4K 大型中継車を展示（写真左）。FUJINON 4K レンズが多数採用されており、中継車内からモニターチェックが可能。

X コーナー : ミラーレスデジタルカメラ最新モデル「FUJIFILM GFX100」や「FUJIFILM X-T3」と、X シリーズ専用シネマレンズ「FUJINON MKX シリーズ」を組み合わせた小型・軽量の撮影システムを紹介。

FP-Z5000 によるブース演出：世界初の「屈

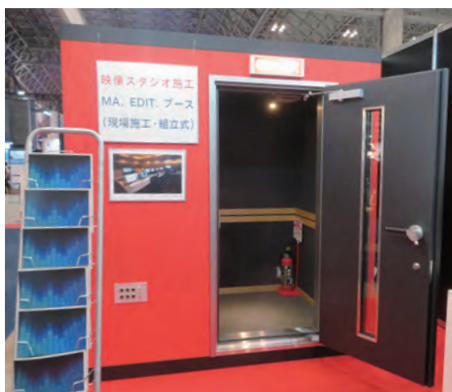


曲型二軸回転機構レンズ」を搭載し、本体を動かさずにレンズの回転だけでさまざまな方向へ投写できる超短焦点プロジェクター「FUJIFILM PROJECTOR Z5000」を使いブース演出を行った。



高橋建設

高橋建設では、1979年の創業以来、防音工事専門業者として自社による責任施工を貫き、日本全国で専門技術者が対応している。同展ではサイズが自由な簡易型アナウンスブースを展示。録音ブース・調整室・編集室・視聴室等で幅広く活用できる。多様化する映像業界のクリエイティブワークを独自のシステムと、確かな遮音技術でフレキシブルにサポート。最近ではインターネット放送等が行われ防音室があると便利である。



タックシステム

Avid S6 および Dolby HT-RMU を用いた Dolby ATMOS ステージにて、SC アライアンスの山本雅之氏、および Be Blue Tokyo の染谷和孝氏による Dolby ATMOS ミキシングセミナーを行った。また、同ステージでは、Avid Technology 社から新しく発売となった Avid S4 コンソールも併設展示した。ソフトウェア・デモンストレーション・ステージでは、iZotope 社「Ozone 9」および「RX7」をはじめ、ポストプロダクション用に新しく開発されたソフトウェアのデモンストレーションも行い、特別ゲストとしてパークリー音楽院で教壇を持つマスタリング・エンジニア ジョナサン・ワイナー氏による特別セミナーも行った。その他以下のような各ブランドからの新製品も各種展示された。

<ADDER ALIF-4000 シリーズ>

Adder 社からは 4K 映像に対応した Adder Link Infinity「ALIF-4000」シリーズが登場。このシリーズとして登場した新しいハードウェアは従来の機種をはるかに凌ぐパフォーマンスと将来性を持ったプラットフォームとして設計された。最初に登場したバージョンですでに 4K60P 映像 2 系統を 1 台のユニットで伝送できるパフォーマンスを携え、ファイバー接続によって従来以上の切り替え速度とレイテンシーを実現して

いる。また、画質に関してもピクセル・パーフェクトなロスレス圧縮転送によってカラーグレーディングや CG 制作に完全に対応した唯一の IP-KVM システムと言える。さらに今後のアップデートによって、HDR への対応もすでに予定されており、放送、映像スタジオ・システムにフォーカスしたロードマップを敷いている。なお、ALIF-4000 シリーズは、従来の Infinity システムとの互換性を持っているため、システム全てを 4000 シリーズで組む必要はない。

低解像度の VGA、1K、2K とった従来の Infinity シリーズの中に必要な部分だけ組み込むことが可能で、全体のシステムコストを抑えたシステムを実現することができる。

<Directout Technologies PRODIGY.MC>
多くの MADI インターフェイスを送り出してきた DirectOut Technologies 社からは、新たに登場した「PRODIGY.MC」を展示。「PRODIGY.MC」は、従来モデルの「ANDIAMO2.XT シリーズ」をさらに発展させ、モジュール・スロット・タイプの I/O カードのセレクションによってスタジオの要求に合わせたコンフィグレーションを自由に組めるフレキシビリティを備えている。また、MADI インターフェイスだけでなく、ネットワーク・オーディオにも対応し、Dante、Ravenna、WSG の 3 種類のネットワーク・オーディオ・カードを選んで実装することができるため、ライブ、放送の現場でのオーディオ I/O ユニットとして抜群の威力を発揮する。

<Yellowtec iXm Podcast>

非常に高性能なマイクゲイン・コントロール



機能「LEA」エンジンを搭載したレコーダー内蔵のマイクロホン「iXm」に価格を抑えた「iXm Podcast」が登場した。どのような現場でも適正なマイクゲイン・コントロールによって歪まず自然なインタビュー収録が可能で、しかも収録操作は片手で OK、ケーブルの接続もレコーダーを担ぐ必要はない。

<NTP Technology>

同じデンマーク製の SKAARHOJ 社の OEM によって NTP Technology 社から Penta シリーズ用のマトリクス・コントロール・ユニットが発売となった。このユニットは、Penta 内部のマトリクス・ルーティングの切り替えと必要な部分のレベル・コントロールをリモートすることができる。また、内部のコンフィグレーションによってブラックマジック・デザイン社製のビデオ・ルーターなども同時に制御することが可能で、スタジオでのライン切り替え、マシンルームでのルーティング、中継車での回線チェックなどに最適なオプションとなる。モデルは、EIA 1U と 2U の 2 タイプが用意されている。



Dolby ATMOS ミキシングセミナーを行なった



Yellowtec iXm Podcast



decimator design 社製品の展示コーナー